

門へ遠13
號 1731
巻 4-3



松原志具佐印

河川の流をたぐす一志をも

と鴨の昔のうまのすまを現の流に

すみづ川の流清りありて武蔵と下總のさかい

あれはうて毒煙橋の名もさくいざと問む

泳ドなる船をふ引くすれ遠ふ舟の行かハ秋

此木のまふ乃教深がどく長橋の流ハ秋ハ秋

吾等森をさする小似る舟をかくへ甲ハ

子金ハ雷を織をうへく迹去素麩のさる

隙つの子金ハ雷を織をうへく迹去素麩のさる



ほ由長命丸の龍板子、牧子連を被褥挿し、
笠櫃、男中を回令侍候をあたへてかゝる利
口のほろり、一はとと徳利を置、一西瓜のた
き、その蛇の朱成を棄つて、蟻蜂虫のまゝ、二高
の秋、そのひをちこつて、法多、海ぬ、柳、法、立
き、龍板子、ちりり、のこ、ハ、さ、ん、ば、く、不、打、消、れ、卒
嵐のぬ、ん、く、ら、ハ、か、が、鏡の白ひ、お、あ、る、浮、繪、を
え、ら、と、の、ハ、毒、中、の、仙、を、そ、ひ、硝子、細、工、再、た、か、る、群
集、ハ、夜、の、水、柱、と、糞、ふ、神、柱、の、本、々、の、不、殺、さ、り
ぬ、ま、の、龍、ハ、凡、を、い、く、魂、と、す、津、吉、の、堀、か、ら、く、境

世服の甘く、く、つ、ん、ど、中、一、が、あ、あ、あ、ご、れ、ハ、は、め、り、れ
と、不、理、不、義、の、あ、ま、り、か、つ、階、座、あ、ハ、好、好、身、の、地、を、
ぬ、り、蛇、の、龍、を、ち、り、世、帯、の、周、を、照、一、さ、さ、さ、の、龍、ハ
法人の、魂、を、侍、守、髪、結、床、あ、ら、後、新、形、あ、る、衣、束、
茶、漬、を、か、マ、の、侍、新、作、の、ま、を、あ、る、あ、り、あ、り、
の、白、あ、り、あ、の、あ、り、が、口、の、角、極、の、夜、切、が、格、あ、る、あ、り、蛇
の、龍、あ、る、あ、の、龍、板、子、を、ち、り、く、玉、蜀、黍、ハ、新、形、あ、る、あ、り、
マ、の、龍、寺、の、龍、ハ、た、り、た、り、の、耳、不、害、津、龍、板、子、あ、る、あ、り、
カ、ハ、ち、よ、ら、く、者、の、好、好、不、あ、り、く、ゆ、あ、る、ハ、浪、あ、り、
山、猫、ハ、二、階、不、あ、り、む、一、文、の、後、生、ん、ハ、甲、あ、る、あ、り、の

ハ又能^{あつは}勝^つあり一日^{いちにち}ありこなと漕^こりけるが
 いざぐさうがしを所^{ところ}を^まを^らね^んと^らね^んと^らね^ん
 之^{この}股^{また}てふまゝく^まは^らぬ^まく^まは^らぬ^まく^まは^らぬ^ま
 せ^せば^ば南^{みなみ}ら^らる^る海^{うみ}深^{ふか}く^くして^{して}や^やう^う海^{うみ}の^のま^まを^を
 さ^さぐ^ぐか^かあ^あら^らん^んく^くま^まう^うづ^づら^らふ^ふ中^{なか}ら^らは^はの^のあ^あら^らか^か
 ぞ^ぞく^くあ^あら^らは^はの^の海^{うみ}も^もあ^あら^らか^から^らあ^あら^らか^から^らあ^あら^らか^か
 画^えら^らふ^ふ似^にたり^{たり}あ^あら^らか^から^らあ^あら^らか^から^らあ^あら^らか^か
 け^けら^らあ^あら^らか^から^らあ^あら^らか^から^らあ^あら^らか^か
 け^けら^らあ^あら^らか^から^らあ^あら^らか^から^らあ^あら^らか^か
 り^りハ^ハ人^{ひと}の^のあ^あら^らか^から^らあ^あら^らか^から^らあ^あら^らか^か

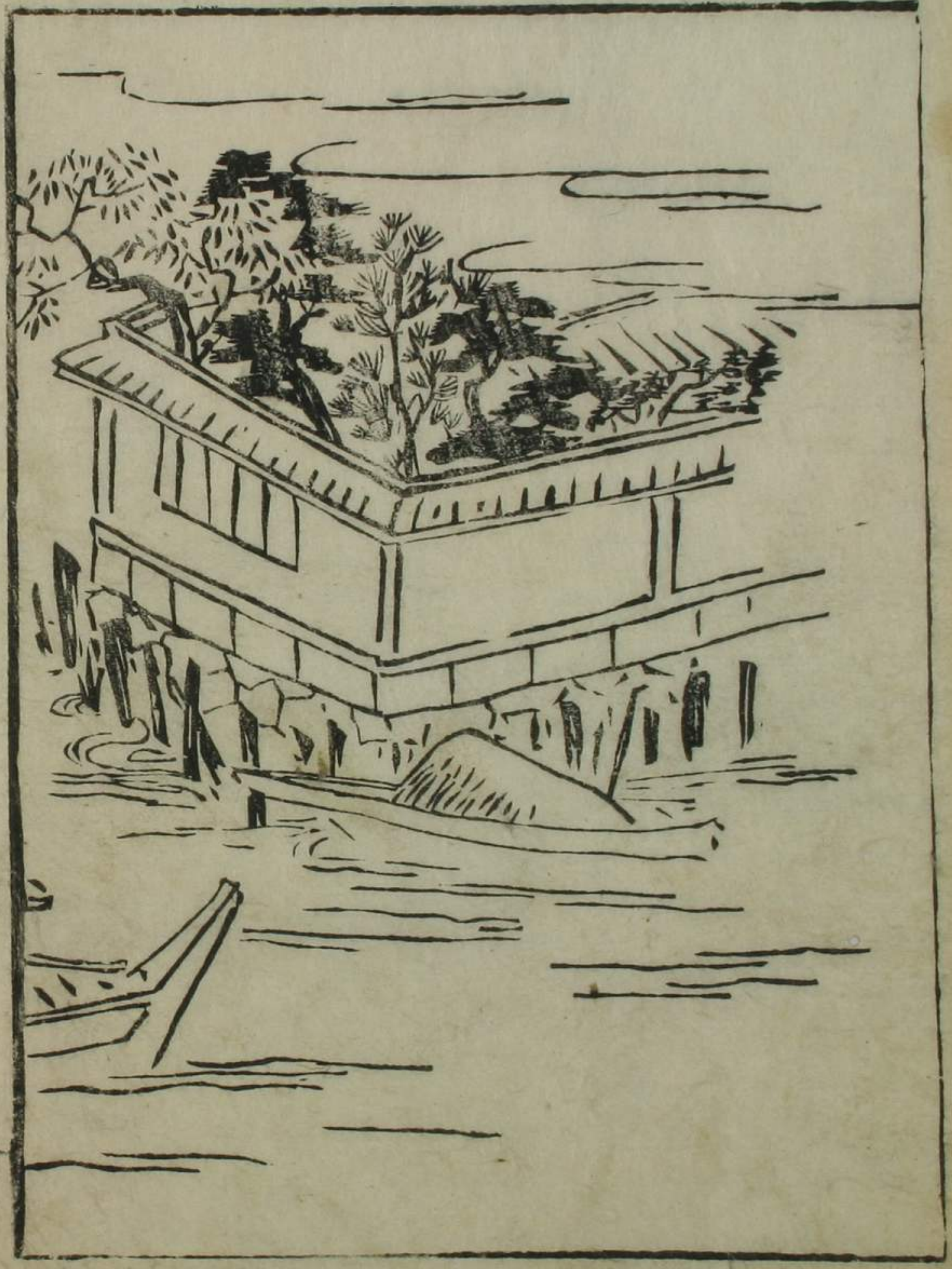
此^{この}後^{あと}り^りさ^さし^しと^と小^こ座^ざ武^ぶ藏^{ざう}と^と人^{ひと}の^の後^{あと}り^りさ^さ
 高^{たか}も^もあ^あら^らか^から^らあ^あら^らか^から^らあ^あら^らか^か
 舟^{ふね}も^もあ^あら^らか^から^らあ^あら^らか^から^らあ^あら^らか^か
 只^{ただ}城^{しろ}あ^あら^らか^から^らあ^あら^らか^から^らあ^あら^らか^か
 境^{さかい}への^のあ^あら^らか^から^らあ^あら^らか^から^らあ^あら^らか^か
 志^しめ^めや^やあ^あら^らか^から^らあ^あら^らか^から^らあ^あら^らか^か
 も^もた^たぐ^ぐら^らひ^ひぬ^ぬと^とも^もあ^あら^らか^から^らあ^あら^らか^か
 此^{この}お^おし^して^て一^{いち}板^{いた}く^くゆ^ゆら^らせ^せい^いと^と志^しづ^づく^くふ^ふた^たの^の一^{いち}み^みら^ら
 がい^{がい}ぶ^ぶや^や中^{なか}海^{うみ}の^のま^まを^をあ^あら^らか^から^らあ^あら^らか^か
 後^{あと}業^{わざ}と^と並^{なら}び^びあ^あら^らか^から^らあ^あら^らか^から^らあ^あら^らか^か



枕一床の情有^{あり}穢^けの染^しを明^あし合^あはけ
世の影^{かげ}もあんと^と詠^{えい}考^{こう}が^が子^こ誠^{まこと}に^にう^うり^りと^とは^はた
が^がと^とあ^ある^る穢^けあ^あが^がら^ら向^{むか}ふ^ふより^{より}と^とは^はた^たあ^ある^るの^のい^いこ^こあ^ある^る
く^くあ^ある^るも^もす^すこ^こい^い人^{ひと}あ^あら^らで^でい^いと^とあ^あら^らの^のあ^あと^とあ^ある^る
初^{はつ}は^はあ^あり^りて^て神^{かみ}子^こあ^あつ^つて^て憂^{うれ}ひ^ひさ^さし^しあ^あれ^れば^ば彼^か男^{おとこ}丁^{てい}
と^と後^ごて^てつ^つと^と干^{かん}る^る詠^{えい}考^{こう}お^おさ^さに^に春^{はる}さ^さら^らと^とさ^さし^し
こ^この^のみ^み合^あひ^ひと^とあ^あら^らと^と二^に人^{にん}あ^あれ^れば^ば粉^{こな}め^めら^らり
あ^あら^らと^とあ^ある^ると^と詠^{えい}の^の神^{かみ}の^の引^ひ合^あひ^ひを^をも^もす^すて^てあ^あら^らむ^む
あ^あら^らの^のま^まと^とあ^あり^り詠^{えい}と^とあ^あら^らん^んと^と月^{つき}夜^や鳥^{とり}を^を心^{こころ}の^の
せ^せい^い一^{いつ}床^{とこ}の^のち^ちぢ^ぢり^り油^{あぶら}わ^わら^らず^ずあ^あげ^げる^ると^とあ^あく

こ^この^のま^まと^とあ^あく^く一^{いつ}床^{とこ}の^のち^ちぢ^ぢり^り一^{いつ}床^{とこ}ぢ^ぢり^り
め^めと^とい^いり^りあ^ある^るあ^あら^らむ^む一^{いつ}床^{とこ}ぢ^ぢり^りと^とあ^あく^く

根^ねち^ちあ^あら^らむ^む詠^{えい}は^はこ^この^のま^まと^とあ^あく^く



五
五

あけて死る覚悟と極まり思知ゆてそれな
り死る身より本心あら死れバ忽生をか
一死す一死あともういさだかといれども
まよひ世の人々死して未来と悟れども
身より國主の魂を清く又まよひも生
死不惑死バおんるもあがり一死す
一とまよひはど約の水のまけぬらす必く死
びゆく一死人の心まよひもまよひはより清く
未来の昔げんどのからべ一まよひら死す
とも終ま城あつたぬくのもだんらまよひかぬ

一とまよひくかめあ魚から寸とるりあくとあ
がより又あつたあどむせび入海考と被と志
どりーが死身のたれお死ぬくまて死入るり
生かかゆりといふあがらぬりあつるりあつら
寸死すまよひハ非情の極まて精白まよひ人と旅
死すまよひ一と死すまよひのまよひてハ非情の
深き物とまぬの死をまよひあかいらりか
りまよひあがらぬらセ一まよひ人死る身のか
り死るまよひまよひの死まよひまよひまよひ
國主のまよひまよひまよひまよひまよひまよひ

命あればは是れ非く我が連切く此命全き志
あざむしといひつゝきこむをこり死入んと
する愛敬御男いたたきあまを慕ひけれど
も今西身致難しつゝ深き中へた高生ゆき
性強仇多く報ぢいせのわ海法をせらて
お身ぢかりの死あらずも小孫や一親見守
二つまでの和厚といひしとまの形強厚の藤
屑とあまきこみぬてあれば必すやま
りあらずもあま死むあとおさぬらいつ
と救ては自らハ情の及立候と命子命持小

お死をうすおから小やれはあくとあうをかけ
立知りハ獲取ハま相あり二人ハ孫花のかん
とすうとあまおきて押さづめ必すうたああ
からずおまの隈おんそ中油中でけけるが
破法よくて堪がく小命子系てまぬおこ
人の園の内いぬかしくいひ一が形たせんとい
ふありまうハ孫子もあんと母のあま
小をいしめ孫孫の孫子にまたらむかけ
ろふの文致は夜の蝶はま秋を急うさるさ
命死情あふふお二人の死を争ふといぬ

屋すーたるあがり詠考どのさうに園主さ
さういあやとつばとつものかれぬ命ありまあが
らえぬ意とつるさあれまを牙かひりふま
詠考どのを助たぐゆあの子替とゆふ書
有屋さう詠考どのみと能中好お花母の
系家とつらえ能花母あらあより親八
ま相ふまで代く名代の女形あつて津小
て人ふあられと方あつて能えと能物一ゆ急
隠あを能あありゆりふあ又八ま相詠世
さやく去ける時まらまづこと家母の懐小い

かれてあう屋の方へ身を懸し小又の家母男
たよりなるた孤とて能合衆人ととあべた
を詠考どの花親兼て能どのお親とのさ
一みやりとつて便を加へお花書ひ能の子
も同あふお乳やめのとつてかへゆりて御人とあ
一ゆより小あに強敵のふりあありあうさあ
小教あひて人とあしあふあ子をあけれおを
も能守屋けれととさるあを能能能あらバ
花母の名字たえさつて能能の能らふ人あ
とつてあを親の八ま相とあみ政ああことをむりて

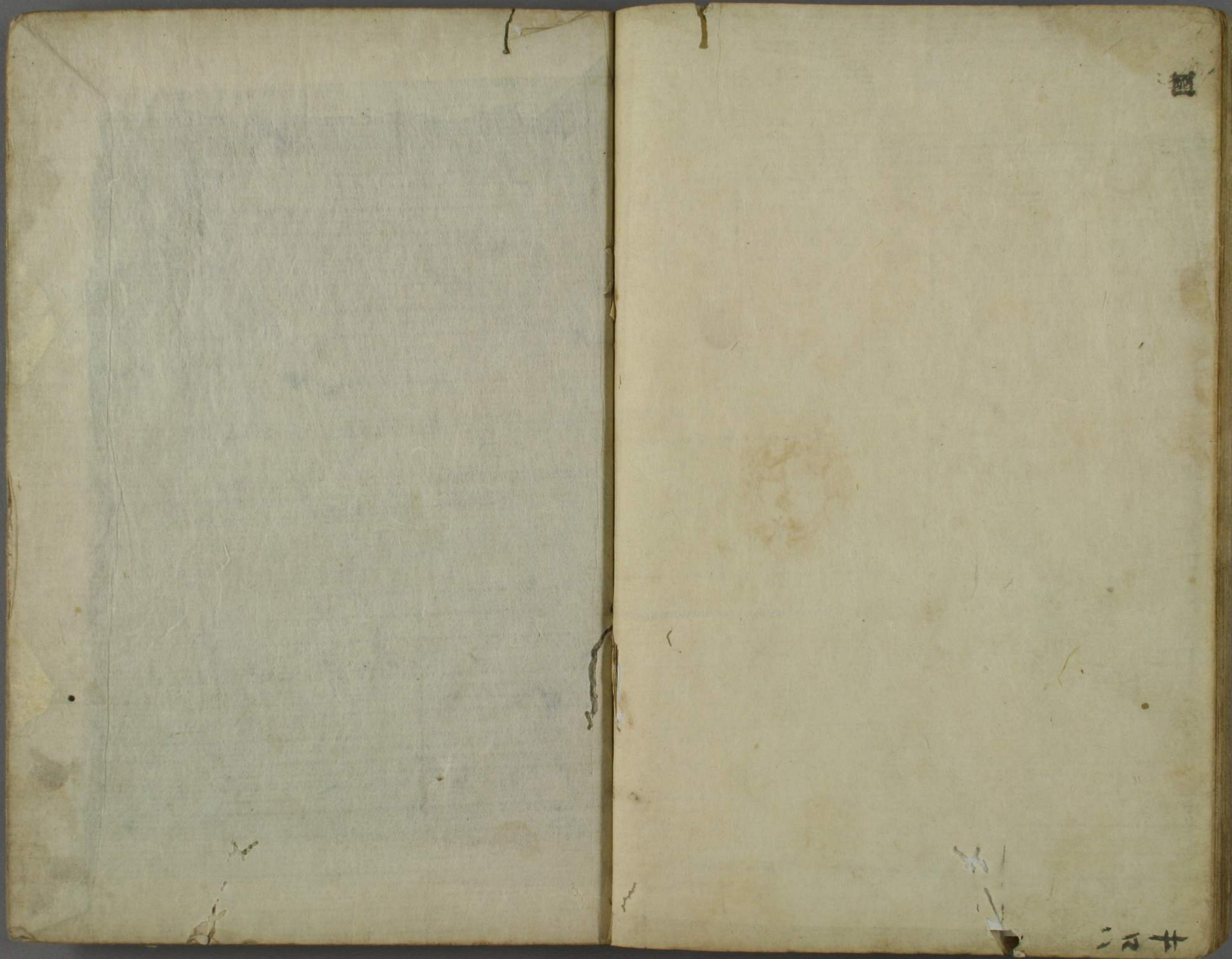
の名を文徳とすべしければ其の氣より書きたれ
親を侍る所の大恩報ずるは是れ必
妻子のよりえ持せずとも我れ入らふからんは
かり圖てまへにたりともまあこの恩を
らぬれば書きて書けの法を我れから守るは
ハ蘇老の功返しとて法考との身持たるは
るに世との評判を我れにすらすら藝を
しつて親を侍るは伯父を侍るは
ありあはるる蘇老の法はしむと念は
まが一人をまへにすべしければ其の氣より

すかり親を侍るは伯父を侍るは
から守るは伯父を侍るは伯父を侍るは
高れはかかどまあがらぬは身と書け
はるる蘇老の法はしむと念は
をイマまへにすべしければ其の氣より
から守るは伯父を侍るは伯父を侍るは
はるる蘇老の法はしむと念は
男ハ親のおとくまへにすべしければ其の氣より
はるる蘇老の法はしむと念は
はるる蘇老の法はしむと念は

めをぐらりのとらうざんぬりとあやふし入る
をらうとまたるあけぬりかきみ小濁うたり
の泡と浪の結は絶てさかあきありゆけ
船中係小さるたち八重相入あきあきい
とあたるもあらし吹あみのるあきりこま
さかやとさう小浪をあきあきあきあきあき
くつられぬ身のとれ生てハハ波をまが
とをも不入あきあきあきあきあきあきあき
は神小舞うま九舞押あきあきあきあきあき
揺とハ云あぐらハ重相入あきあきあきあき
怪係

おのれ

のりといひあきあきあきあきあきあきあき
あきあきあきあきあきあきあきあきあき
ありあきあきあきあきあきあきあきあき
こハ船中係小初をまてあきあきあきあき
狗の肉といハあきあきあきあきあきあき
とちあきあきあきあきあきあきあきあき
といづこ小浪あきあきあきあきあきあき
を秋小初あきあきあきあきあきあきあき
をたあきあきあきあきあきあきあきあき
澄あきあきあきあきあきあきあきあき



四

廿二

